

有効成分青枯病菌感染性バクテリオファージ RKP180 を含有する申請農薬の  
使用方法及び薬効・薬害試験結果概要

1. 青枯革命プロ（青枯病菌感染性バクテリオファージ RKP180  $1 \times 10^{10}$  PFU/mL 液剤）

(1) 使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	青枯病菌感染性バクテリオファージ RKP180 を含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	青枯病	100 倍	50mL/株	定植2日前 ~定植直前	—	株元 灌注	—
えごま(葉)			—			5 分間 浸漬	
えごま(種子)							

(2) 薬効

① トマト、ミニトマト

薬効・薬害試験の結果、青枯病に対して無処理区と比べて効果が認められた。  
ミニトマトの青枯病に対する効果については、トマトの試験で評価した。

表 1-1：青枯革命の薬効・薬害試験結果概要（トマト、青枯病）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		病害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (pfu/mL)	使用 液量 (mL/株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	新潟 R2	青枯病	中	100 $1 \times 10^8$	50	定植 2 日前	株元 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R2	青枯病	中	100 $1 \times 10^8$	50	定植 2 日前	株元 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	新潟 R3	青枯病	中	100 $1 \times 10^8$	50	定植 当日	株元 灌注	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	新潟 R4	青枯病	多	100 $1 \times 10^8$	50	定植 2 日前	株元 灌注	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	新潟 R4	青枯病	多	100 $1 \times 10^8$	50	定植 当日	株元 灌注	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R4	青枯病	少	100 $1 \times 10^8$	50	定植 2 日前	株元 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R4	青枯病	少	100 $1 \times 10^8$	50	定植 当日	株元 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	新潟 R1	青枯病	中	100 $1 \times 10^8$	—	定植 2 日前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	兵庫 R1	青枯病	多	100 $1 \times 10^8$	—	定植 2 日前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	新潟 R2	青枯病	中	100 $1 \times 10^8$	—	定植 2 日前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 R2	青枯病	中	100 $1 \times 10^8$	—	定植 2 日前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	兵庫 R2	青枯病	甚	100 $1 \times 10^8$	—	定植 2 日前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		病害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (pfu/mL)	使用 液量 (mL/株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	山口 R1	青枯病	少~ 多	100 $1 \times 10^8$	—	定植 2日前	5分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	沖縄 R2	青枯病	甚	100 $1 \times 10^8$	—	定植 2日前	5分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	新潟 R3	青枯病	中	100 $1 \times 10^8$	—	定植 当日	5分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	兵庫 R3	青枯病	甚	100 $1 \times 10^8$	—	定植 当日	5分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

② えごま(葉)、えごま(種子)

薬効・薬害試験の結果、青枯病に対して無処理区と比べて効果が認められた。

えごま(種子)の青枯病に対する効果については、えごま(葉)の試験で評価した。

表 1-2：青枯革命の薬効・薬害試験結果概要（えごま(葉)、青枯病）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (pfu/mL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
えごま (葉)	沖縄 R2	青枯病	多	100 $1 \times 10^8$	定植 2日前	5分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
えごま (葉)	沖縄 R4	青枯病	甚	100 $1 \times 10^8$	定植 当日	5分間 苗浸漬	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

(3) 薬害

① 対象作物への薬害

表 1-1 から表 1-2 に示した薬効・薬害試験において、薬害は認められなかった。

青枯病菌感染性バクテリオファージ RKP180 原体  $2.4 \times 10^{10}$  pfu/mL を用いて実施した、トマトに対する薬害試験結果概要を表 1-3 に示す。試験の結果、薬害は認められなかった。

以上の結果から、申請作物に対する薬害について問題がないと判断した。

表 1-3：青枯病菌感染性バクテリオファージ RKP180 原体の対象作物以外の薬害試験結果概要

作物名	試験場所 実施年度	処理時期	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (pfu/mL)	散布液量 (L/10a)	使用方法	薬害
トマト	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。

② 対象作物以外の作物への薬害

青枯病菌感染性バクテリオファージ RKP180 原体  $2.4 \times 10^{10}$  pfu/mL を用いて実施した対象作物以外の作物に対する薬害試験結果概要を表 1-4 に示す。試験の結果、5 科 9 作物について、薬害は認められなかった。

以上より、適用作物の周辺で栽培される作物への薬害について問題ないと判断した。

表 1-4：青枯病菌感染性バクテリオファージ RKP180 原体の対象作物以外の薬害試験結果概要

作物名	試験場所 実施年度	処理時期	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (pfu/mL)	散布液量 (L/10a)	使用方法	薬害
なす	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。
きゅうり	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。
キャベツ	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。
だいこん	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。
だいず	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。
稲	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。
小麦	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。
ねぎ	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。
にら	兵庫 R1	生育期	24 $1 \times 10^9$	150	散布	薬害は認められなかった。